

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
1	徳島大学	松下裕貴	徳島大学理工学部都市デザイン研究室	徳島大学サイクルツーリズム講座	<p>徳島大学サイクルツーリズム講座は、北海道で際だったビジネスモデルを展開されている(株)アーチ・ヒーロー北海道の高橋幸博さんをメイン講師に迎え、サイクルツーリズムをマネジメントする人材育成を目指してきました。2年前からは大学の現地会場とオンラインを結ぶハイブリッド開催を始めて、全国の参加者が集まるようになっていく。</p> <p>発表では、講座の開催状況の紹介、徳島で生まれているプロンプトン・ポタリングツアーや徳島空港のYeti & Ltblレンタサイクル徳島など実践例、吉野川市や鳴門市での活動、徳島県が進める大鳴門橋自転車道整備と連携した活動などを紹介します。また、しまなみ、長崎、岩国、ナショナルサイクルルート(NCR)の構築を目指している鳥取、福井での活動している方々をつなぎ、ローカル・ツー・ローカルのサイクルツーリズムの視線について紹介します。今後の開催への参加希望者を募るためQRコードなどを掲示して、通知先登録をできるようにします。</p>	サイクルツーリズム／ガイドツアー
2	徳島大学	矢部拓也	徳島大学総合科学部	ガイド付きサイクリングツアー アクティビティ調査報告 -徳島県吉野川市、阿南市、徳島市でのフィールドを事例として-	<p>本報告は、徳島県吉野川市、阿南市、徳島市で行っている、ガイド付きサイクリングツアーアクティビティの実証実験の報告である。本活動の発端は、報告者の真鍋、原田、萬川の3人が、2018年9月に吉野川市でまちづくり活動をスタートしたことに始まる。「吉野川市地方創生協力隊」「一般社団法人ネイテック吉野川」「NPO法人TANE」を立ち上げ、2021年7月STAGE05において一般社団法人kittamu設立を機に矢部が顧問として参画し、「徳島大学サイクルツーリズム講座」(今回のポスターセッションでも報告)とも連携しながら、真鍋・矢部を中心にサイクルツーリズム実証実験を開始した。「アドベンチャーツーリズム」「コンセプトガイド」「ミニベロ・E-Bike・サポートカー」「現実離れた食事(ストリーリー性のあるもの)」をコンセプトにツアーづくりを行い、毎回の実証実験ごとの動画を作成している。是非、ポスターのQRコードを読み取り、報告とあわせて見てほしい。</p>	サイクルツーリズム／ガイドツアー／観光振興／自転車文化
3	徳島県	西岡健	徳島県スポーツ振興課	「サイクル・キャビン」を使用したサイクルツーリズムについて	<p>サイクリングは、「年齢」や「体力」、「その日の体調」に応じて走ることができる「健康づくりのツール」として、「健康増進」はもとより、「観光及び文化の振興」など、様々な効果が期待できることから、徳島県では、「自転車王国とくしま・創造プロジェクト」を立ち上げサイクルスポーツの普及・促進に取り組んできたところであります。今後、「サイクルツーリズムの振興」を進めるため、ロードバイクを分解することなくそのまま、客室内に持ち込むことが可能な大型観光バス「サイクル・キャビン」を製作しました。乗車定員は、20人で、本格的なサイクリストの方にも、安心して持ち込んでいただける、「専用の固定台」を「19基」設置しております。</p> <p>この「サイクル・キャビン」を活用することで、「普段行くことのできない」場所や、観光地を訪れる「広域サイクリングツアー」も可能となり、県内外、幅広い層の皆様に、本県が誇る自然豊かで多様性に富んだ、サイクリングコースをお楽しみいただけることができます。今後、この「サイクル・キャビン」を最大限に活用し、国内外に向けて、「自転車王国とくしま」を強力に発信することにより、スポーツの振興はもとより、観光誘客や交流人口の拡大を推進していきます。</p>	サイクルツーリズム／ガイドツアー／観光振興／自転車文化

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
4	徳島県	須藤孝彦	県土整備部高規格道路課	鳴門海峡を往来する「大鳴門橋自転車道」の実現に向けて	<p><事業概要> 総事業費:約58億円(徳島・兵庫両県) 予定期間:工事着手後4~5年 延長:1,799m(徳島県:868m 兵庫県:931m)</p> <p>「徳島・兵庫両県」と「本州四国連絡高速道路株式会社」が連携し、大鳴門橋の桁下の「新幹線空間(四国新幹線整備までの期間)」を活用し、「渦潮」を眼下に鳴門海峡を自転車や徒歩で往来できる世界にも類がない「自転車道」の設置に向け、検討を進めている。「しまなみ海道」を走行する、瀬戸内海一周ルート「セトイチ」やナショナルサイクルルートの指定に向けた取り組みが進む淡路島一周ルート「アワイチ」、四国4県が連携して進めている四国一周ルート「シコイチ」の3つの広域ルートの接点となる地域特性を生かし、サイクルツーリズムや観光振興へ繋げる。</p>	サイクルツーリズム／観光振興／自転車ネットワーク／自転車利用促進
5	石ヶ森郁弥・吉田長裕	石ヶ森郁弥	大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻都市基盤計画研究室	運転行動データを用いた電動アシスト自転車を利用する高校生を対象とした交通安全ワークショップの効果	<p>自転車は、高校生の主要な通学手段として用いられているが、年齢別の自転車事故死傷者数は最多となっている。また、少子化に伴う学校の統廃合や公共交通機関のサービス縮小に伴い、電動アシスト自転車を用いた長距離通学の検討が進められている段階にある。そのため、国内では、自転車通学の通行環境の安全性向上や交通安全教育の充実が求められている。しかし、交通安全教育方法の効果に関しては、高校生の心理的な側面への影響とともに、自転車の安全利用への行動変容プロセスに関する実用的な知見は限られているのが現状である。そこで、本研究では、自転車の運転行動データを活用した異なる2つの手法による交通安全ワークショップを実施した。ワークショップでは、用いるデータや言葉遣いを変えることにより、自己評価による生徒の心理的リアクティクス面と、客観評価による交通行動、ログデータによる前後比較によりその効果を比較、検証し、具体的な交通安全教育・学習に関する知見を得ることとした。</p>	交通安全教育／学校教育／自転車通学対策
6	御所名航也・吉田長裕	御所名航也	大阪公立大学	信号交差点における隅角部条件に着目した複数自転車と左折車との選択的錯綜状況に関する分析	<p>信号交差点において直進自転車と左折車のより安全な走行を実現するため、交差点構造を現状よりも安全にしていける必要がある。日本における自転車通行空間の例をみると、自転車道や自転車専用通行帯、矢羽根・ピクトグラムの表示などの整備がなされている交差点やそうでない交差点があり、それにより自転車の通行位置にも違いが生じている。とくに信号交差点では、左折車と複数の自転車通行パターンによる複雑な錯綜状況も生じており、こういった条件についても錯綜危険度に関わる要因を明らかにする必要がある。そこで、本研究では、東京都内の異なる信号交差点において、複数の自転車と左折車の選択的錯綜状況の発生パターンを明らかにするとともに、TTC(Time to Collision)指標を使って錯綜パターン毎の安全性を比較し、危険な錯綜に関わる要因について知見を得ることを目的とする。</p>	自転車通行空間／自転車事故
7	富山県	松本知幸	富山県観光振興室コンベンション・賑わい創出課	富山湾岸サイクリングコース	<p>「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾を眺めながら湾岸沿いに富山県を横断するナショナルサイクルルートに指定されたコース。富山湾の絶景とグルメを楽しむサイクリングイベント「富山湾岸サイクリング」も開催されています。</p>	サイクルツーリズム／広報・PR／ナショナルサイクルルート／観光振興

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覽

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
8	富山県	松本知幸	富山県観光振興室コンベンション・賑わい創出課	あいの風サイクルトレイン	あいの風とやま鉄道では2021年4月より、自転車を解体せずにそのまま電車に積み込める「あいの風サイクルトレイン」を定期運行しています。サイクルトレインは、東富山駅から入善駅までの約40キロの区間を運行し、車内では自転車を固定するサイクルラックを搭載しておりますので、安心、快適に目的地まで行くことができます。また、降車駅の黒部駅と入善駅は、昨年5月にナショナルサイクルルートに指定された「富山湾岸サイクリングコース」の近くにあるため、降車後はすぐに快適な自転車旅を楽しめます。サイクルトレインを利用して、世界で最も美しい湾クラブに加盟している富山湾と壮大な立山連峰を望む富山湾岸サイクリングコースをぜひお楽しみください。	サイクルトレイン／サイクルツーリズム／観光振興／ナショナルサイクルルート
9	ライトウェイプロダクツジャパン(株)	左木孝徳	企画室	未就学児の安全な自転車利用	①自転車用トレーラーの現状と法令について 欧米では一般的に使用されている安全性の高い自転車用トレーラーの現状と日本の法令について紹介。 ②未就学児向けの自転車教育 五感を活用した未就学児向け自転車安全教育を自治体向けに行っているため、その内容の紹介。	交通安全教育／サイクルツーリズム／自転車通行空間／自転車事故
10	日本自転車文化協会	御子柴慶治	ライトウェイプロダクツジャパン(株)	クロスバイクの乗り方指導マニュアル	日本自転車文化協会はライトウェイプロダクツジャパン株の中で、ソフトプログラムを担ってきた(https://www.jba-rw.org/)が、近年自転車通学にスポーツバイクが多用される現況を鑑みて、指導者向けに「クロスバイクの乗り方指導マニュアル」を開発した。特徴は①指導する対象はスポーツバイク初心者、②スポーツバイクの構造と操作・乗り方の基本をわかりやすく説明できるように編集、③全教程をイラスト化、④専門用語をできるだけ使わず、一般的な用語を使用、⑤ポイントになるキーワードの提示である。全ての内容の無料公開を検討中であり、皆様のご意見を承りたい。	交通安全教育／自転車マナー／自転車通学対策／自転車文化
11	道路空間整備システム構築プロジェクト	御子柴慶治	日本自転車文化協会	デジタルを活用した新しい参画型の交通安全教育	伊那市と大成ロテック(株)技術研究所は令和2年に「道路空間整備システム構築プロジェクト」に関する連携協定を結んだ。金沢の事例を参考に、伊那市では連絡会議「TaiseiRotec x InaCity Project(通称TRIIP)」を組織した結果、市の各部署に加え、伊那警察署、長野県なども参加している。特に「自転車」に着目し、中でも最大のユーザーである中学生の通学に焦点を絞り調査を実施した。「ヒヤリハット」に「グッド」ポイントを加えたマップづくりを行い、さらにGoogleフォームのアンケートでは、中学生は各自のipadで回答。クルマ以外の多様な移動手段の安全快適性を実現していく上で、自転車通学などの実態解明に中学生が参画することは有効である。デジタル手法による効率化が図れるほか、中学生の地域への関心が上向き、住民たちが行動を起こすなど、さまざまなメリットが見えている。	交通安全教育／自転車通行空間／自転車通学対策／社会実験、住民合意、住民参加
12	伊那市自転車活用推進協議会	御子柴慶治	日本自転車文化協会	長野県伊那市におけるマウンテンバイクフィールドの展開	長野県伊那市は、令和2年3月に「伊那市自転車活用推進計画」を策定した。特に「地域観光振興」と「市民のQ O L向上」を柱としている。南アルプスと中央アルプスに挟まれた長大な谷を形成しているため、多くのサイクリストに愛されてきたフィールドだ。伊那市では、近年、環境に配慮したマウンテンバイクフィールドがいくつか誕生してきている。また地域の林業と結びついたり、農業施設の一部であったり、あるいは廃棄物最終処分場の跡地活用だったりする。その一端をご紹介します、比較的馴染みの薄いマウンテンバイクの利活用について、共に考えたい。	社会実験・住民合意・住民参加／ガイドツアー／観光振興／レンタサイクル

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
13	高齢者事故からモビリティを考える会	御子柴慶治	日本自転車文化協会	「移動貧困社会がやってきた?!」	参考図書の紹介である。 池袋多重衝突事故をきっかけに結成した高齢者事故からモビリティを考える会メンバーが執筆した「移動貧困社会からの脱却」(時事通信社刊)。歳を重ねても障害があっても安全で自由な移動に困らない、心豊かな暮らしと社会のための「モビリティ」について問題提起し具体的な解決策を示している。 世界の自転車活用の流れや、日本のモビリティの現状や問題点を紹介。2027年には100万人を超える交通弱者が生まれるとの予測がある中で、新たなマーケットの可能性についても言及している。 自転車に関わる方やモビリティに興味のある方はぜひご一読いただき、一緒に考えていきませんか？	自転車通行空間／自転車ネットワーク／健康寿命／ラストワンマイル
14	若狭湾サイクリングルート推進協議会	加藤広也	福井県交流文化部観光誘客課若狭湾サイクリングルート推進室	若狭湾サイクリングルート(わかさいくる)の取り組み	・福井県は北陸新幹線の県内開業に向けて、素晴らしい景観と豊かな食に恵まれた福井県嶺南地域の長をを活かし、誘客の一つの柱としてサイクルツーリズムを推進。 ・「若狭湾サイクリングルート(わかさいくる)」は、「敦賀若狭の海湖(うみ)を楽しむ」をテーマに、嶺南6市町(敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町)を通り、名勝三方五湖や若狭湾沿岸の観光地を巡るルート。 ・若狭湾サイクリングルート推進協議会を設置し、ナショナルサイクルルートの指定を目指して走行環境、受入環境の整備等を進めている。 ・9月にはガイドツアーの商品造成に向け、モニターツアーを実施。モニターからは湖畔を走る非日常感、スピリチュアルな歴史、農業漁港の営みの風景等、ポテンシャルが高い地域とのご意見を頂いたので紹介する。 ・また、福井工業大学吉村研究室からは、敦賀市のシェアサイクルを活用し個人や地域の活性化を目指す「つるが散走」を提案。	ナショナルサイクルルート／ガイドツアー／観光振興／散走
15	「世界の自転車」翻訳研究会	三国千秋	地球の友・金沢	「私たちの知らない自転車利用の世界」翻訳完成!	「私たちの知らない自転車利用の世界」("Cyclists & Cycling Around the World")の翻訳をweb上で公開。内容は、1)自転車の取組みを、いかに始めるか?、2)「自転車文化」の復興と発展、3)自転車による「まちづくり」、4)自転車の社会・経済的側面、5)自転車インフラ、6)自転車の安全、7)カーゴバイクとシェアサイクル、8)自転車政策・多様な交通との連携、9)自転車教育。是非、一度ご覧ください。Webのアドレスは、当日お知らせします。	世界の自転車利用／世界の自転車施策・自転車戦略／自転車文化／世界の自転車教育
16	科学警察研究所	萩田賢司	科学警察研究所	交通事故からみた自転車と歩行者の通行方向	道路交通法の規定によると、歩車非分離道路では、歩行者は右側端を右側通行、自転車は左側端を左側通行しなければならない。歩行者の通行方向に係る歩行者事故分析を実施したところ、歩行者が右側通行時に発生した事故の割合が左側通行時よりも低かった。特に、単路において車両の前方左の歩行者と衝突した事故は、歩行者が右側通行の割合が低かった。車両の走行環境水準が高い道路の歩行者事故も、歩行者の右側通行時の割合が低かった。自転車事故は交差点等で多発しており、交差点では右側通行の自転車が見落とされやすく、自転車が左側通行時の交通事故が相対的に少ない。歩車非分離道路では、歩行者と自転車が道路交通法を遵守することにより交通安全が確保されていると考えられるが、すれ違い方法に問題が残っている。	通行方向／歩行者／交通事故

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
17	KEEP LEFT PROJECT	南八重智子	KEEP LEFT PROJECT代表	自転車の左側通行を「KEEP LEFT」プレートで発信！	KEEP LEFT PROJECTとは、「KEEP LEFT」「自転車は車道の左側を通行」という交通ルールを、独自の発想でデザインした「KEEP LEFTプレート」で、広く多くの人に知ってもらうことを目的としています。KEEP LEFTプレートをつけることで、自分自身との約束として表現することにもなり、見た人への啓蒙にもつながります。自転車の左側通行が守られれば事故は減ります！ <主な活動> ■KEEP LEFTプレートを作るワークショップ デザインされたKEEP LEFT台紙に、絵を描いたりぬりえをしてラミネート加工し、自転車のカゴに付けられるようにします。 ■KEEP LEFTオリジナルプレートの制作販売 KEEP LEFTプレートは、みんなが自転車に付けたいと思うような、おしゃれでカッコいいアルミプレートをデザインし制作し、協力店にて販売。	自転車マナー／交通安全教育／自転車事故／自転車通学対策
18	NPO法人「ペダルハートきりしま」・一般社団法人都城観光協会・東京農業大学大学院	福田理恩	東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 造園学専攻	宮崎県 都城地域での自転車活動と研究について	今回のポスターでは、宮崎県都城地域でのサイクルツーリズムをはじめとした自転車活動とその下積みとなった自転車研究について紹介します。都城では2020年冬にサイクルツーリズムの模索が始まり、2021年に「NPO法人ペダルハートきりしま」がモデルコースを検討しました。その後、2022年「都城観光協会」によってサイクルツーリズムと都城の特産品である「肉」を体験するミートツーリズムを掛け合わせた、サイクルリングマップが完成しました。自転車というツールによって、より長い時間、都城にとどまる事が期待されています。また、都城の自転車現状を明らかにするため主に2つの自転車研究を実施してきました。1つ目は都城地域の現状を把握するため2020年にスポーツバイク愛好家を対象に都城地域での自転車利用の実態を明らかにする研究を行いました。2つ目は2021年にモデルコースの検討段階で走行時の景観特性を把握するため、定量指標を用いて景観評価を行いました。	サイクルツーリズム／自転車マップ／自転車文化／自転車通行空間
19	一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン	中島祥元	一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン代表理事	「サイクルツーリズムで地方誘客・地域活性化」導入地域募集のご案内	ルーツ・スポーツ・ジャパンでは、サイクリングと観光誘客を掛け合わせた“サイクルツーリズム”での地域活性化に特化した活動を全国で行っています。私たちが実現したいのは「地域とサイクリストの幸せなマッチング」。地域を訪れるサイクリストにも、受け入れる地域の皆さまにも、双方に喜んでもらえる機会を全国に増やしたい。その土地ならではの地域資源を活かした、オリジナルな施策を0ベースから立案し、成功に導きます。導入を検討されたい地方自治体の皆さま、お気軽にご相談ください。 ▼弊社団で提供可能なコンテンツの一例 ①1DAYイベント(ツール・ド・ニッポン) ②期間分散型サイクリングイベント ③位置情報アクティビティ(ライドアラウンド) ④サイクリングガイドの養成 ⑤地域資源調査・ワークショップ ⑥各種マーケティング調査・データ提供	サイクルツーリズム／サイクリングイベント／自転車マップ／観光振興

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
20	金沢自転車ネットワーク協議会事務局	前田達也	国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所調査第二課	安全で快適な自転車利用環境の創出に向けて～街頭指導マニュアルの刊行について～	金沢自転車ネットワーク協議会では、2021年3月に自転車の「街頭指導マニュアル」を刊行した。背景には、街頭指導の担当者が定期的に入れ替わるため、街頭指導を行う意義・効果、及び正しい自転車ルール等が十分に理解されない中で街頭指導が行われている実態や自転車事故対策として自転車利用者へのルール・マナーのさらなる周知が求められていたことが挙げられる。マニュアルの作成にあたり、自転車ネットワーク協議会のみが作成に携わるのではなく、日頃から自転車通行空間が整備された地域で街頭指導を行っている方々と意見交換会や勉強会を行い、現場の声を積極的に取り込んだ点がポイントとなる。完成した「街頭指導マニュアル」は街頭交通推進隊をはじめとする関係機関への配布やSNS 等での発信を進めている中で、既に街頭指導方法を継承する際や交通安全活動の参考資料として活用されており、今後も多様な場面での活用が期待される。	街頭指導／自転車マナー／交通安全教育／自転車事故
21	上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験 事務局	中野達也	株式会社日本海コンサルタント	しなの鉄道線沿線における広域型シェアサイクルの導入	信州地域デザインセンター(UDC信州)・上田市・千曲市では、しなの鉄道線沿線地域(長野～軽井沢間)の回遊性向上や長野県ゼロカーボン戦略の実現に向けて、「しなの鉄道線(別所線)+シェアサイクル」を軸とした新しいモビリティのあり方や公民連携による事業化の方向性について検討中である。令和3年度から「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」を実施し、令和4年度は電動アシスト自転車90台、サイクルポート22箇所まで事業を運営している。上田市と千曲市でシェアサイクルを相互乗り捨てできる広域型のシェアサイクル社会実験であり、観光協会等とサイクリングツアーを企画開催するとともに、ワーケーションプログラム等の地域イベントとも積極的に連携している。今後は、シェアサイクル事業を通じたゼロカーボン戦略の推進に向けて、太陽光パネル+蓄電池による非接触自動充電システムを開発・導入予定である。	シェアサイクル／電動アシスト自転車／公共交通連携／自転車利用促進
22	うべ交通まちづくり市民会議	村上ひとみ	うべ交通まちづくり市民会議	中学生との自転車通学路点検ワークショップ取り組み	宇部市では自転車ネットワーク計画を策定し、通学路線等に、自転車ナビマーク整備を進めている。宇部市立藤山中学校では自転車通学が約3割あるが、文教地区に立地し、自転車・歩行者が多い一方、道路が狭い丘陵地に車の交通量も多く、自転車ナビマークが施工された。うべ交通まちづくり市民会議(うべこまち)では、コミュニティスクールの協力を得て、藤山中学校で生徒参加の自転車危険マップ・ワークショップを提案し2022年7月に全校集会で自転車安全教室と自転車アンケートを実施した。そのうえで、7月27日に地域住民と中学生有志約10名、うべこまちスタッフで通学路の点検調査を実施し、8月4日に点検結果を持ち寄り、地図に記載し、気づき提案をプレゼンにまとめるワークショップを開催した。成果として、道路の改善課題を示し、左側通行の大切さ・歩行者の安全配慮など、事故防止に役立つ学びと啓発に有用とわかった。	自転車通行空間／自転車通学対策／学校教育／住民参加

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
23	堺市建設局サイクルシティ推進部	小川未央	堺市自転車環境整備課	大和川沿川における自転車を活用した都市魅力の向上と発信	2025年大阪・関西万博の開催を契機に、国内外からの多くの来阪者が安全、快適に府内各地を周遊できる環境の整備に向け、広域的な自転車通行環境の充実を図っている。堺市では、一級河川大和川左岸沿川において、安全、快適に自転車・歩行者が通行できる(仮称)大和川サイクルラインの整備を推進している。また、このサイクルラインに隣接する未利用地に、「散走」の発着地などサイクルサポート機能等を有した自転車版“道の駅”や、楽しみながら交通ルールを学ぶことができる自転車体験施設を民間事業者等と連携して整備し、自転車を活用した都市魅力の向上を図ることを検討している。大和川沿川では、令和3年度から国土交通省、大阪府、沿川自治体及び民間事業者等が連携して自転車を活用した賑わい創出に取り組んでおり、大和川周遊サイクルスタンプラリーや各地でイベントを開催し、堺市では一般社団法人バイクロアによるイベントを開催した。	自転車通行空間／自転車ネットワーク／散走／自転車利用促進
24	一般社団法人自転車キャンプツーリズム協会	野地教弥	一般社団法人自転車キャンプツーリズム協会 代表理事 野地教弥	日本で唯一の「自転車×キャンプ=旅」イベント・BIKE&CAMP	日本で唯一の「自転車×キャンプ=旅」イベント・BIKE&CAMPをポスターでPRしていきたいと思えます。BIKE&CAMPはサイクルツーリズムの次のフェーズを模索する意味で「自転車×キャンプ=旅」を広めるために開催しており、通過されるエリアではなく目的地となるサイクリングエリア作りを目指す地域とともに今後も開催してまいります。イベント自体は自転車メーカーやアウトドアブランドが集まる展示会+会場内でのキャンプを楽しむ新感覚のもの。今年は11月に茨城・霞ヶ浦と三重・いなべで開催いたします。	サイクルツーリズム／サイクリングイベント／自転車文化／観光振興
25	鳥取県観光戦略課サイクルツーリズム振興室	松原由佳	鳥取県 交流人口拡大本部 観光交流局観光戦略課サイクルツーリズム振興室	鳥取県のサイクルツーリズム施策の取組	○鳥取県のサイクルツーリズム施策の取組概要の説明 1. サイクリストの聖地化に向けた取組 ◆県内どこでもサイクリングが楽しめる環境づくり →県が主体的に整備するコースに加え、各市町や民間団体による様々なコース設定を推奨 →コグステーションに代表されるダイジョブシステムの全県展開(受入環境整備促進) ◆地域の魅力を感じられるサイクルツアー促進 ◆商工会と連携し、文化・食・体験に宿泊を絡めた観光消費の拡大 →ローカルな地域をサイクルで巡り、地域特性を生かしたおもてなしの展開、滞在時間の延伸・消費行動の拡大を目指す。 ◆サイクルの多様なイベントの実施促進 2. NCR指定[「鳥取うみなみロード」をNCR指定に!] ◆鳥取県を東西に横断する152kmのコース(鳥取うみなみロード)でNCRを目指す。 ◆国内誘客、コロナ後を見据えたインバウンド誘客を促進する。 ◆NCR指定に向けて走行環境の整備や受入れ環境の充実に取組中。	サイクルツーリズム／ガイドツアー／観光振興／ナショナルサイクルルート

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
26	鳥取県西部ブランディングプロジェクト「大山時間」	濱本直子	鳥取県商工会連合会西部商工会産業支援センター	サイクリスト聖地化事業	<p>サイクルで当地の魅力を満喫していただける環境を作るため、サイクルツアーの造成、プロツアーガイドの養成、受け皿となる地域事業者の商品・サービスの開発及びブラッシュアップ等の事業を行っています。今年度はこれまで実施した養成講座のガイド候補者によるツアーの商品化に取り組んでいます。</p> <p>また、鳥取県全体での「サイクルツーリズム」による誘客の確立を目指し、説明会やシンポジウム等の開催を通じ、商工会だけでなく、国交省や県市町村や議会、サイクル関係団体等にも働きかけ、コロナ禍における自転車利用による観光客誘客とまちづくり(自転車利用環境整備)への理念共有、持続的発展等を提言した結果、「鳥取県サイクルツーリズム推進・連携協議会」や「鳥取県西部サイクリングルート整備検討会」の設立を実現しました。今後は、ナショナルサイクリングルート指定に向け、域内外で連携し、地域事業者の持続的発展と地域経済の活性化に寄与します。</p>	サイクルツーリズム/ナショナルサイクリングルート
27	水戸市交通政策課	佐藤通	水戸市交通政策課	水戸市の自転車利用環境整備について	<p>平成27年度から、水戸市は本格的に自転車利用環境整備に着手してまいりました。これまでの実績について、概略をお示ししながら、工夫した点や、問題点などについて発表いたします。</p> <p>主な実績 ■自動車運転者に自転車通行空間を認識させる！ 自動車運転者からの視認性を高めた自転車ビクトグラムや矢羽根による路面表示を行いました。 ■通行指導の実施！ 沿線高校や警察と連携し、自転車利用者のマナー向上を図りました。</p>	自転車通行空間/路面表示/街頭指導/自転車マナー
28	文教大学 松本研究室	高橋隼人	文教大学情報学部	自転車に対する自動車の追いつき挙動に関する研究	<p>交通事故の件数が減少している中、自転車関連事故は全体の約20%前後で横ばい傾向が続いている。また、自転車の運転中に死亡した人の中で、65歳以上の人は約70%を占めている。国内において自転車利用者が車道走行する際の危険感確保の視点からの評価に関して十分な研究が少ないことが指摘されている。本研究では、単路部における自動車の自転車に対する追越し挙動をプローブ自転車を用いて、自動車の挙動および自転車の危険感に関して高齢者、若年者を対象にデータ収集を行った。その結果、対向車との距離が長くなるに従い、追越し車両の離隔距離および速度が大きくなる傾向にあること、若年者の場合、離隔距離が広くなると危険感を感じないが、高齢者の場合、離隔距離に依存せず危険感を感じる傾向にあること等が分かった。</p>	自転車通行空間/自転車事故
29	文教大学 松本研究室	村越元汰	文教大学情報学部	協調型シミュレータを用いた高齢ドライバーの左折錯綜リスク評価	<p>65歳以上の免許保有者は、2021年度末には1900万人を超え、全免許保有者の23%以上を占めるようになり、高齢者の交通事故の割合も増えており、高齢者に対する交通安全対策の構築が急務になっている。本研究では、全方位視野協調型シミュレータを用いて、交差点における自動車の左折および自転車の直進時における自動車の車道走行、歩道ショートカット走行、歩道走行に関して、高齢者、若年者での錯綜時の安全性を比較した。その結果、以下のような知見を得ることが出来た。1.最接近距離に関しては、どの走行においても高齢者の方が大きい傾向がみられる。2.最小 TTC に関しては、若年者の方が小さな値を示すが、安全に感じる割合に関しては、若年者の方が多い。3. CS と DS での不安感を比較すると CS の方が不安に感じる割合が少ない。</p>	自転車通行空間/自転車事故/高齢利用者

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
30	京都市建設局自転車政策推進室	土屋建人	京都市建設局自転車政策推進室	大宮交通公園の再整備及び自転車教室の取組	昭和44年に開園した大宮交通公園は、子どもたちが楽しみながら交通ルールを身に付けることができる施設として親しまれてきましたが、施設の老朽化や北消防署の移転を契機として、現在の交通問題に沿って自転車を中心とした新たな交通公園として再整備を行った。 再整備に当たっては、Park-PFI制度を導入し、本市の財政負担を大幅に軽減するとともに、交通安全学習機能(サイクルセンター)や店舗の設置等により、公園の機能と利便性の向上を図った。 公園は令和3年4月に再開園し、サイクルセンターでは、子どもたちが安全な環境で自転車に乗る練習をすることができるほか、自転車広場を中心に、子どもからお年寄りまで、ライフステージやニーズに応じた自転車安全教室を開催している。	交通安全教育／自転車マナー
31	一般社団法人 市民自転車学校プロジェクト(CCSP)	藤本典昭	一般社団法人 市民自転車学校プロジェクト(CCSP)	遊びながら学ぶ 子ども自転車教室ハンドブック公開	未就学児から小学校低学年に向けて経験する自転車デビューは、子どもが保護者から社会へ踏み出す大事な時期になります。 この自転車デビュー時に家庭を含む社会では、自転車の安全利用に関して、どのように教育するのかの仕組みや情報が不足しています。言わば社会に「受け皿」がありません。そこで先ず何から教えれば良いのかの手引きとして、デンマークで生まれた教育手法を基に、数多くの保育所や幼稚園の先生方の声と私たちCCSPの経験とをプラスしたハンドブックを作成しました。WEBサイト上で自由に閲覧、ダウンロードできますのでご活用ください。また、リクエストに応じて教室の実践ノウハウや活用について、個別にお伝えする機会も設けています。 ポイント:自転車デビュー時に必要なのは、先ず自転車を意識せずコントロールでき、周りの空間を認識できる能力を習得することです。	自転車事故／交通安全教育／学校教育／安全利用条例
32	Plat Fukuoka cycling	安楽駿作	Plat Fukuoka cycling(福岡市)	Plat Fukuoka cycling visionの展望 これまでの実践と研究活動について	Plat Fukuoka cyclingは、2020年5月からメディアプラットフォームであるnoteを中心に、福岡がbicycle friendlyな都市(まち)となるための論考をテーマ毎に連載してきました。 *Copenhagenize Index2019を読む 世界自転車都市ランキングであるCopenhagenize Index2019年発表内容を掘り下げる連載を掲載。 *Books&Cycling guide 自転車に限らず、都市・交通に関する本と福岡市内のサイクリングスポットの紹介。 *Plat Fukuoka cargobike style カーゴバイクは、Copenhagenize Indexにおけるbicycle friendlyな都市に必要な要素です。筆者は、カーゴバイクを日常生活で導入し、その魅力等を連載。カーゴバイクをテーマにしたトークイベント及び試乗会を2021年11月に実施。 *Plat Fukuoka cycling vision Plat Fukuoka cycling visionは、bicycle friendlyな都市のためのより具体的な都市像を考えるをテーマに連載しています。最終的な研究内容は、都市環境デザイン会議の研究プロジェクトにて発表しています。	世界の自転車利用／世界の自転車施策・自転車戦略／自転車文化／自転車通行空間

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
33	NPO法人I-DO(北九州交通公園・交通安全センター)	濱田千夏	NPO法人I-DO	:「自ら楽しく学ぶ自転車安全利用」～NPOによる自転車安全活動実例～	福岡県の自転車中心としたモビリティに特化したNPO法人です。弊社では「駐輪場事業」を事業の軸として据えており、その他、ミッションを達成する事業として「交通安全教育事業」、「レンタサイクル事業」、「放置自転車啓発事業」、「その他モビリティに係る事業」を運営しています。 「駐輪場事業」:指定管理業務、自主運営業務の2種類あります 「交通安全教育事業」:北九州交通公園・交通安全センターを指定管理業務で運営しています 「放置自転車啓発事業」:地元の大学生と中心市街地での放置自転車に対してオリジナル啓発札を貼る、放置された自転車を整理しています 「その他モビリティに係る事業」:自転車だけではなく先進的な乗り物や多様な乗り物を先行導入し行政と実証事業を行っています。	交通安全教育/レンタサイクル/放置自転車/駐輪場
34	愛媛大学「環四国サイクリングプロジェクト」	仲道雅輝1, 村田晋也1, 許宏徳2, 坂本大蔵3	1.愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室, 2.国立高雄科技大学, 3.一般社団法人しまなみジャパン	大学生による日台国際交流「環四国サイクリングプロジェクト」による国境を越えた深いつながりの形成	愛媛大学のリーダーシップ教育の一環として、学生が中心となって企画運営するプロジェクト「環四国サイクリングプロジェクト」を実施している。このプロジェクトは、大学と愛媛県、しまなみジャパンが連携している、産官学連携によるサイクリングプロジェクトであり、台湾の国立高雄科技大学との歴史・文化の相互理解を目的とした国際交流でもある。その中で、自転車新文化の異同や、安全な走行、マナーに関する講習会も行っている。本発表では、5年間にわたるプロジェクトの実績や、コロナ禍を経てブラッシュアップされた開催方法を紹介するとともに、両国学生のアンケート調査結果をもとにしたプロジェクトの成果と今後の展望について発表する。	四国一周サイクリング/日本台湾国際交流/自転車新文化/文化・歴史の理解
35	アイキューソフィア株式会社	坂元舞	アイキューソフィア株式会社まちづくり推進室	「駐輪場シェアサービスみんなちゅうSHARE-LIN」官民連携で駐輪場不足を補い、不正駐輪の無いキレイなまちづくりを促進!	「みんなちゅうSHARE-LIN」は空いている土地・スペースを誰もが貸し出すことができ、誰もが借りることのできる駐輪場シェアサービスです。これまで8つの自治体と協定を締結し(東京都台東区、墨田区、町田市、八王子市、港区、文京区、神奈川県大和市、藤沢市)、大手鉄道会社や金融機関とも連携しながら全国的不正駐輪対策に努めて参りました。 本サービスの活用で、駅周辺のわずかな土地や店舗の空きスペースを駐輪場にすることができ、駅前店舗を利用する際などの短時間駐輪が必要とされる小規模分散型駐輪場の確保が可能となります。自転車利用者が目的地により近い駐輪場を探すことができるようになり、利便性の向上に繋がります。また、駅前の放置自転車が減少することにより、歩行者等にとっても、駅周辺が快適な空間となることが期待され、自治体全体の活性化に貢献できると考えています。今後も、様々な協定や連携を図り、不正駐輪対策を全国に広げて参ります。	放置自転車/駐輪場/自転車活用推進法/自転車利用促進
36	輪の国びわ湖推進協議会	藤本芳一	輪の国びわ湖推進協議会	滋賀県でのサイクルツーリズム推進、現在のとりくみ	びわ湖一周サイクリング「ビワイチ」は、しまなみ海道とともに、日本でのサイクルツーリズム先進地として並び称されるまでになりました。 ビワイチ成功の要因として、行政と民間がうまく連携して取り組みを進めてきたことが挙げられます。 今回の報告では、民間団体としての輪の国びわ湖推進協議会の昨年度からの取り組みとして、ビワイチ公式ガイドブックの制作・出版と、それを通じて滋賀県内でサイクルツーリズムの関わる人々の連携を深めていくための活動について報告します。 また、滋賀県と県内市町・関連団体の連携組織である滋賀プラス・サイクル推進協議会の本年度からの取り組みであり、県民の方にサイクリングに親しんでいただくため、県内で一斉にサイクリングイベントやツアーを行う「ビワイチの日」についても報告させていただきます。	サイクルツーリズム/カイトツアー/自転車マップ/サイクリングイベント

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
37	輪の国びわ湖推進協議会	南村多津恵	輪の国びわ湖推進協議会	自転車通勤の推進により地域の自転車文化を底上げしよう	自転車通勤の導入・推進を支援する動画教材を制作しました。滋賀県では、自転車通勤体験事業(2019～2021年度)を通じてスポーツバイクを事業所に貸し出し、1～2カ月の自転車通勤を体験いただきました。参加したのべ46人の約9割が、自転車通勤は「よかった・とてもよかった」と評価。うち10人が体験に使った自転車を購入され、自転車通勤を継続されています。本事業の成果の一つとして、プログラム内で行った3回の実践講座を動画の教材として制作しました。初めてスポーツバイクに挑戦する方のための乗り方指導や、自分でできる基本のメンテナンス方法の紹介もあります。また、これから事業所で自転車通勤を進めたいと考える経営者や総務担当に向けた導入の手引きと、体験者へのインタビュー、実践事業所による意見交換会の模様などを紹介しています。これらは滋賀プラス・サイクル推進協議会のYoutubeチャンネルにて公開しています。	自転車通勤／自転車文化／健康寿命／CO2削減
38	OTAサイクルフェスタ実行委員会	室谷恵美	(株)springpc	OTAサイクルフェスタ	OTAサイクルフェスタとは、安全・快適に自転車で楽しく出かけたくなるまち「大田区」を、地域住民はもちろん、近隣エリアに向けてPRし、自転車を“たのしむ”ライフスタイルを広く理解と実感してもらうためのイベントです。 https://ota-cycle-festa.jp/ 地元の自転車販売店(東京都自転車商業組合大田四支部連合会)を中心に「自転車無料点検」を行い、子ども向けには、サイクルベースあさひによる「Kids school」や、アイデスの「D-BIKE」を使用したバランスバイクの乗り方講習を開催。最新のスポーツ自転車から電動自転車まで、様々なメーカーの「バイク試乗会」や、大田区のまちを巡る「e-bike散走ツアー」、ステージコンテンツなども充実した内容となっています。警視庁自転車安全利用指導啓発隊(BEEMS)が出演するなど、大田区自転車等総合計画(令和4年度～8年度)前期アクションプランに基づき、行政と地元自転車販売販売店、自転車メーカーが協力し、大田区の自転車活用を推進します。	通行環境系／安全・教育／ツーリズム系／まちづくり系
39	株式会社シマノ	阿部竜士	株式会社シマノ企業文化コミュニケーション部	「ソーシャルX散走」企画コンテストのご紹介	株式会社シマノは、散歩のようにゆったりと気ままに自転車に乗って、偶然の出会いや発見を楽しむ「散走」という自転車の楽しみ方を発信しています。その散走をソーシャルな課題を解決する手段の一つとして活用し、地域の資源や魅力を含んだ散走企画を大学生を対象に募る「ソーシャルX散走」企画コンテストを2022年に開催しております。すでに40チームの応募から一次審査を通過した6チームが最終審査に進んでいます。今回のポスター発表では広く会場の方々に「ソーシャルX散走」企画コンテストの存在を知って頂くとともに、大学生が地域の課題をベースに散走や自転車を活用して地域と関わっていくことの重要性を皆さまと共有したいと考えています。	まちづくり系
40	北海道アドベンチャーシクロツーリズム	白見ゆかり、北野昌昭、西原重雄	知床サイクリングサポートandひぐまサイクル	流水サイクリング	世界へ発信する上において、どんな気象環境の中でも自転車を愛し、楽しむ日本人の姿を伝えたい！オールにっぽんで前へ前へ！！ 世界自然遺産・知床の冬の自然を満喫「流水サイクリング」 日本・北海道の雄大な美しさを皆様にも！ 絶賛シクロツーリズム！ぜひ、体験あれ！	サイクルツーリズム／ガイドツアー／観光振興／レンタサイクル

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
41	北海道サイクルルート連携協議会、株式会社ドーコン	山本純江	株式会社ドーコン交通部	北海道のサイクルツーリズム推進に向けた取り組み	アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながら、統一的なコンセプトのもとサイクルツーリズムの振興による広域的な周遊観光等の地域振興を実現するため、行政のみならず、観光や自転車等の民間事業者、地域の住民、来訪するサイクリストなど多くの者が想いを共有し協力する中での一體的な取り組みを推進しています。このような取り組みを進めるにあたり、目指す姿や具体的な取組方法、役割分担等を示す共通の指針として「北海道のサイクルツーリズム推進方針」を定めました。推進方針に基づき、全道8ルート(2022.10現在)において安心安全な走行環境・受入環境の整備、情報発信を進めています。	サイクルツーリズム／観光振興／路面表示／自転車休憩所
42	北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会・北海道開発局帯広開発建設部・株式会社ドーコン	平出渉	株式会社ドーコン総合計画部	ナショナルサイクルルート「トカプチ400」の取り組み	令和3年5月に第2次ナショナルサイクルルート(以下、NCR)として指定された「トカプチ400」について、NCR指定後から現在に至るまで協議会として進めてきた取り組みについて紹介するものである。取り組みについては、2年以上に渡るコロナ禍での観光産業の低迷に対し、「トカプチ400」が十勝地域の観光振興の起爆剤となるため、NCR指定後の走行環境整備の状況やルート上の自転車利用者交通量の観測状況、基幹ルートであるトカプチ400による集客を十勝地域全域に浸透させるための地域ルート制度の紹介、サイクルステーション・サイクリストにやさしい制度の創設、トカプチ400オリジナルグッズの開発等について紹介する。	サイクルツーリズム／ナショナルサイクルルート／観光振興
43	日本工営株式会社	藤高勝己	仙台支店交通都市部	福島県南会津地域におけるサイクルツーリズムの取り組み状況	福島県南会津地域(下郷町、檜枝岐村、只見町、南会津町)は「サイクルツーリズム」に適した地域であり、令和3年3月には「南会津サイクルツーリズム協議会」が設立され、自治体と地域内の自転車愛好団体等との連携体制が整備されたところである。「サイクルツーリズムの適地」として当地域の知名度を向上させ、地域外からサイクリストを呼び込み、関係・交流人口を拡大させ、自転車を活用して、観光関連産業をはじめとする地域産業を活性化させることを目的として、令和3年度において、「南会津地域におけるサイクルツーリズム事業」を実施した。 (1)サイクルステーション (2)サイクリングポイントララー (3)ワンデイサイクルロゲイニングイベント (4)アンケート結果と課題・提案 本プレゼンテーションでは上記の内容を説明する。	サイクルツーリズム／観光振興／サイクリングイベント／サイクルラック
44	文京区	堀田隆史	文京区土木部管理課交通安全係	車道通行割合による自転車通行空間への意識の違いについて	文京区では、本年7月に文京区自転車活用推進計画を策定し『安全で快適に自転車を活用できるまちづくり』を目標に、施策を進めております。計画の策定に当たり実施した、自転車に関する住民アンケート調査では、車道通行の割合が多い人と歩道通行の割合が多い人で、自転車通行空間に対する満足度や、通行環境に対する不満点、車道通行時に不安と感ずる箇所等に違いが生じました。本発表では、アンケート調査結果におけるそれらの違いと文京区自転車活用推進計画の概要について、自転車活用推進施策の検討の一助となるよう、報告を行うものになります。	都市交通／自転車通行空間／自転車活用推進計画

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
45	国際航業株式会社、南島原市建設課自転車道路整備班	松浦琢	国際航業株式会社	南向きに走ろう！「南島原市の自転車道」間もなく供用！	南島原市では、鉄道廃止から14年が経過し、廃線跡を自転車歩行者専用道路として活用した自転車まちづくりの取組みが進められています。 その取組みは、市民の日常生活を支える快適な自転車・歩行者の通行空間を確保し、自転車を含めた通行の安全性の向上を図り、自転車を活用した市民の健康増進や地域の魅力を巡りながら交流できる地域づくりの実現を目指すものです。 自転車歩行者専用道路の整備は、総延長32.1kmを3区間に分けて区間ごとに令和3年度から令和5年度の3ヶ年で完了を目指しており、今年度は折り返しの時期でもあります。 本ポスターセッションは、自転車歩行者専用道路整備の背景と内容、供用開始に向けて市内で行われている取組みなどを紹介するとともに、供用開始後のサイクルツーリズムの展開に向けたPRを実施するものです。	自転車通行空間／サイクルツーリズム／自転車活用推進計画／自転車マップ
46	国際航業株式会社	山崎晴彦	国際航業株式会社	車道混在ギャラリー	わが国では、2012年11月に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(初版)」が策定され、これを機に、「自転車は『車両』であり車道通行が大原則」という観点に基づいた自転車走行空間整備が加速度的に進められています。 そのような中、全国各地では既存道路幅員の中での整備や事業費の点から、「車道混在」による整備が多く見られます。特に、「暫定整備」として車道混在を採用している例も多々あります。 全国車道混在の中では、矢羽の配置の工夫、ピクトグラムの工夫(法定外表示)や、景観を意識したものなどが存在します。 弊社では、社内の自転車空間整備や自転車活用推進に携わる技術者に向けて、国内各地や海外における「自転車走行空間事例集」を研究し作成しました。本ポスターセッションは、この中から「車道混在ギャラリー」として、全国の車道混在整備の事例を紹介いたします。なお、番外編として、世界の自転車あれこれを紹介いたします。	自転車通行空間／路面表示／ピクトグラム／案内サイン
47	琉球国際航業株式会社	大門達也、山崎晴彦	琉球国際航業株式会社	Velo-city(コロナ前)参加報告	国際航業・琉球国際航業(株)では、自転車国際会議(Velo-City)に過去8回参加・発表を行った。その中でもOKINAWAを題材とした発表は5回(2015年以降4年連続)である。 これまでに、私たちがOKINAWAを題材に発表した概要を報告する。 2009/ブリュッセル【ベルギー】沖縄北部自転車走りやすさマップ 2013/ウィーン【オーストリア】南城市でのPedelecによるシェアリング 2015/ナント【フランス】自転車走行による路面調査手法 2016/台北【台湾】沖縄における私たちの取組 2017/アムステルダム【オランダ】サイクルアイランド・OKINAWA 2018/リヂェン【オランダ】サイクルツーリズムによる沖縄の経済効果 Velo-Cityとは、1980年にプレーメン(ドイツ)で第1回会議が行われ、本年Ljubljana, Slovenia(リュブリャナ、スロベニア)で28回目となった自転車国際会議である。題材は、まちづくり・インフラ、ツーリズム、教育、テクノロジー、産業、経済等多様であり、60か国以上の参加者で議論される。	自転車通行空間／サイクルツーリズム／自転車活用推進計画／自転車マップ

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
48	国際航業株式会社、琉球国際航業株式会社、名護市、一社)ツール・ド・おきなわ協会、NagoBicycleLabo、一社)沖縄県サイクルツーリズム推進協会 共同	伊禮嵐	琉球国際航業株式会社	withコロナ時代における自転車活用推進 沖縄県名護市を中心とした取り組み事例	沖縄県名護市では、2020年に「自転車活用推進計画」を策定し、ハード整備・ソフト整備を両面から行政・民間の協働で進めています。ハード整備では、国道58号の自転車道(L=約4km)をはじめ、市内には車道混在を主とした自転車通行空間の整備がなされています。一方、ソフト面においては、covid-19によりサイクリングや自転車教室などイベント開催が自粛となりました。しかしながら、「ツール・ド・おきなわオンラインイベント」の開催では1万3千人が参加するなど、サイクリングへの機運を絶やすことはありませんでした。2022年になり、徐々に入りウイズ・コロナでのイベントの実施で少しずつ活動を再開しているところです。本年11月には、待望のツール・ド・おきなわ2022がリアルに開催され、これを機に「自転車の街」として活気づくことが期待されます。本ポスターセッションは、ソフト施策を中心に、名護市を中心とした連携内容を紹介します。	自転車活用推進計画／サイクルツーリズム／ロードレース／交通安全教育
49	千葉市自転車政策課	中尾洋介	千葉市建設局道路部自転車政策課	千葉市における自転車施策 ちばチャリストスタイル！	千葉市では、環境にやさしく、健康にもよい自転車を、楽しく安全に、自発的に利用する千葉市らしい生活スタイル『ちばチャリストスタイル』の実現に向け、「楽：自転車の活用と利用促進」、「走：自転車の利用環境の整備」、「守：交通安全の確保」を施策の柱として様々な取り組みを実施しています。その中でも特徴的な取り組みや施設等をいくつかご紹介いたします。	交通安全教育／自転車マナー／街頭指導／自転車通行空間
50	国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所、八千代エンジニアリング株式会社	大野貴史、山崎早苗、竹原秀一	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所交通対策課、八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部国内事業部道路・交通部	東京23区内における直轄国道の自転車通行空間の整備計画の策定・整備の推進	ポストコロナの新しい生活様式を見据え、自転車利用者の増加への対応として、「東京23区内における自転車通行空間の整備計画」を策定し、令和5年度までの概ね3年間で直轄国道約60kmを整備予定です。整備計画に基づく早期整備に向けて、東京国道管内の自転車整備検討対象区間全線を対象として、MMS測量を行いました。これまでは現地測量、図面等の作成に多くの時間を要していましたが、MMS測量による現況平面図の作成により、設計・協議の資料作成期間を短縮しています。また、駐停車車両により第一車線が走行車線として使われていない箇所において、自転車通行空間整備と駐停車対策の両立を図るため、第一車線を削減し駐停車車両にも配慮した安全な自転車通行帯の整備を検討しています。	自転車通行空間／幹線道路
51	本間恵子	本間恵子	笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所特別研究員	健康的なまちづくりの国際動向と自転車の活用推進	国連は、2030年をゴールとした「持続可能な開発目標(SDGs)」を2015年に採択した。それを受けて、様々な国際機関・団体や各国政府・自治体でも2030年に向けた目標設定が行われている。また、2018年には「世界自転車デー(World Bicycle Day)」を制定し、持続可能な開発に向けて、自転車が格差解消や環境改善に貢献できると期待している。従来から健康的なまちづくりを推進してきた国連の一機関「世界保健機関(WHO)」は、運動不足を世界的な重要課題と捉え、身体活動を増やすため、2030年をゴールとする国際的な行動計画を2018年に策定した。そこには、ウォーキングとサイクリングを推進するまちづくりも含まれ、その経済的評価の方法も開発が進められている。COVID-19によって人々の健康意識が高まり、屋外での運動、特に道路を使った運動が増えている。安全で快適な走行空間が、社会課題解決の観点からも一層重要となる。	自転車活用推進計画／健康寿命／自転車利用促進／環境教育

第9回自転車利用環境向上会議 in さいたま ポスターセッション一覧

貼付番号	出展者名	担当者		発表タイトル	発表概要	キーワード
		氏名	所属			
52	京都市立芸術大学	藤本英子	京都市立芸術大学美術学部デザイン科	自転車道色ガイド	<p>自転車政策は、2016年12月、国の「自転車活用推進法」の成立を受けて(2017年5月施行)、全国的に急速に進みつつある。全国で自転車利用環境整備が進むにつれて、路面表示の色彩について、景観からの視点が置き去りにされてきている。国の自転車路面色の推薦色が「青色」であったため、多くの自治体で彩度の高い青色の自転車路面色が広がっていった。</p> <p>一般的な日本の景観では、暖色系等の色彩が中心であり、寒色系の「青」は色相として大変目を引く。注意喚起という視点だけで捉えるだけでなく、まちそのものが持つ美しさを生かす視点では、大変周辺景観の魅力を落とすことになる。</p> <p>自転車利用環境整備においては、地域の景観色彩を踏まえた上で、過度に目立たず視認性を高める色彩を活用することで、地域全体の魅力向上につながる。この発表では、その手法と全国で実施された景観に相応しい表示色の事例を紹介する。</p>	路面表示 / 自転車活用推進法 / 自転車活用推進計画
53	一般社団法人日本パラサイクリング連盟	小山結美	大阪支部	タンデム自転車利用のこれかと「可能性」	<p>タンデム車は現在、45道府県の公道で走行可能となり、パラサイクリングへの活用や、SDGsの視点からも注目されている。</p> <p>種類は多岐にわたるが、ここではサドルとペダルが前後に二つ、後ろ席でのハンドル操作不要のものを指す。良さとしては「一人で自転車に乗れない障害者も乗車可」「体力差のある二人が同じスピードで走れる(力を補える)」「走行中に容易にコミュニケーションが取れて親しくなれる」などが挙げられる。課題としては、車両が身近に無いことや、まだ走行できない都県があることで、一般の方の認知度が低く、身近なものでないことである。タンデム車には、大きく「一人で乗れない方に自転車移動の可能性」を与えることと、「身近な人とともに走る文化を醸成し、サイクリング全体を振興する可能性」を有するという希望がある。タンデム車の可能性を証明するために、来年春、障害ある方などを含めた方々と、太平洋岸自転車道の全走行を計画している。</p>	タンデム自転車 / 自転車文化 / 自転車利用促進